

彩り

冬号
2021年度



「Art」

- 特集「突撃！養成校のアート事情 -目白大学の場合-」
- ねえ、きいて！「アートは、ひととわたしをつなぐもの」
- 私の声「『お魚アーティスト』小久保昭広さん」
- 教えて SAOT!!「部局・委員会について教えて!! 第5弾」
- OT ギャラリー 等

No.06

突撃!

養成校の アート事情

—目白大学の場合—

『アート』、それは作業療法にとっては切っても切り離せないもの。
作業療法士の養成校では、授業のひとつとして「アート」を学んでいます。
今回は埼玉県内にある養成校・目白大学の授業を取材させていただきました。
一体、どんなことが行われているのか!? いざ、突撃!

突撃! 目白大学の授業に潜入せよ!

目白大学では「基礎作業学演習」という科目を通じて作業療法士のルーツであるアートに関わる作業活動を実際に体験し、考える機会を設けています。どの作業活動でも、ただ作業を行うだけではなく、道具の管理や患者様に提供できるように工程や手順の理解、道具の使用方法についても学びます。

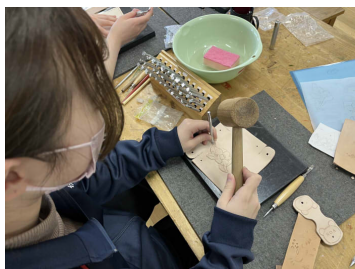
基礎作業学演習 I

1年生を対象に、木工・陶芸の授業を行っています。実際に大学内に窯があり、学生の作った作品を窯入れして焼き上げます。作品は持ち帰ることができます。作る楽しさに触れてもらい、自身が楽しむこと、作業の特性について知ってもらうことを目的としています。



基礎作業学演習 II

2年生を対象に革細工・さをり織りを行っています。使う物品の多さや、作品づくりを通じて精神面や動作分析など自己分析と、周りの友人との違いなどを比較しながら行っています。



結果!

どの作業活動も、作業の楽しさを知ることが大切にし、
作業療法として提供できるように励んでいる!!

突撃2 学生から感想を聞く！

《さをり織り》

日々の授業で忙しいと感じていた中、時間を忘れるほど夢中になれる楽しい体験ができ、とても貴重な機会でした。

織りを進めていくと、『もっと織りたい』という欲と、『こんなに織ったんだ』という達成感で満たされ、心が豊かになっていきました。さをり織りが楽しいと思える理由とは、織り方やデザインに対して明確な決まりがないことだと感じました。

私の作品も好きな色である明るい色や淡い色を続けて使っていたり、講師の方に提案していただいた羊毛で不揃いに丸く引き出したデザインを大きさを変えて作っていったことで、自由な表現をしました。またここは、私の工夫したお気に入りのポイントです。

将来は作業療法にさをり織りをやりたいと思っており、自ら経験した楽しさを伝えながら提供していきたいと思います。

(石井文絵さん)



《革細工》

私はカービングに力を入れて作品を作りました。カッターの力加減をコントロールするのが難しかったですが、練習を重ねて最後はきれいな曲線を彫れるようになりました。そのため彫り終えた後の達成感は大きかったです。一方で、着色では思い通りの色を作れず、悔しい思いをしました。

様々な感情を往復したため、革細工は非常に忘れがたい作業になっています。(飯塚千恵さん)



突撃3 講師の先生にインタビューせよ！



【さをり織り講師】加々美真理子先生

『さをり織り』を始めたきっかけ

大学時代にテキスタイルに興味があり、最初から最後まで自分一人で作り上げることがやりたいと思い探していたところ、出会ったのが「さをり」の適塾でした。

その時はさをり織りがいわゆるデザインしてその通り作るという一般的な手織りとは一味違うことは知らずに始めました。

『さをり織り』の魅力

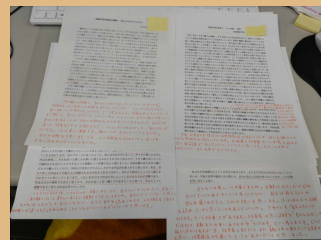
適塾には年齢や障害の有無を問わず、いろいろな方が織りを楽しみにいらしていました。本当に人それぞれ思いの作品を目にして、自分には無かった発想や色使いにハッとさせられたり、常識にとらわれずに素直にありのままの織りのパワフルさに圧倒されたり。「小手先の整ったきれいさ」ではなく、「その人そのものから出てくる世界」がかたちになっていることにとっても心を動かされました。

創始者の城みさをさんの教えの通りに、さをり織りをしている仲間同士、上手下手とか、誰が先生で偉いとかではなく、フラットに作品を通してお互いの世界を素直に感じて、刺激しあい、認め合える空気があり、人をつなげる力を持っている、というところが大きな魅力だと思います。“織り”という物を作る楽しさだけではなく、織りを通じて人と関わる面白さを教えてもらいました。

講師をして感じたこと

限られた授業時間の中で、さをりの「教えないで引き出す」という指導法を実行するのは難しいですが、様子を見ながらちょっとした声掛けや、織り方のヒントを伝えたりしながら、その人らしさが出てくるのを待つようにしています。

初めは戸惑っていた学生さんたちも、織っていくうちにそれぞれいろいろなことを感じて下さっているようで、いつも最後の作品発表とレポートを拝見するのを楽しみにしています。



▲レポートへのコメント。いつも丁寧に書いてくださいます。

結果！ アートの魅力を知ってこそ、作業療法だ！

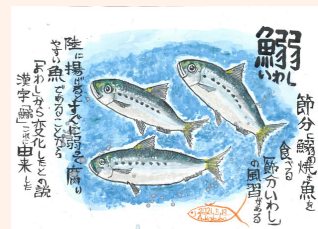
私の声

—作業療法体験談—



今回の話し手は、小久保 昭広 さん

この本物そっくりの魚の絵、どうやって描かれていますか？実は筆を口にくわえて描いています。作者の小久保さんは頸椎硬膜外膿瘍術後により頸髄損傷を負われ、首から下の手・足・体に麻痺があります。今回は作品が生まれるまで、また小久保さんのアートへの想いを伺いました。



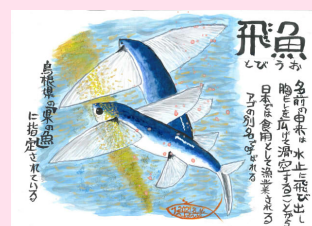
◆『アート』をはじめたきっかけ

今から3年半前、同じテーブルに座っている利用者さんから勧められたのがきっかけでした。以前のダイアリー⁽¹⁾では毎週水曜日に絵画教室の時間があり、絵が好きな人たちが自由に参加し楽しんでいました。その時は絵画を専門とする職員がいらして分からないところは自由に教えてもらう事が出来ました。

自分で絵なんか描けるか自信なんかありませんでしたが、社長⁽²⁾が背中を押してくれたので、やる気が（10%位かな～）出ました。最初は墨で白と黒の濃淡を使い描き始めました。

◆『アート』にまつわる思い出深いエピソード

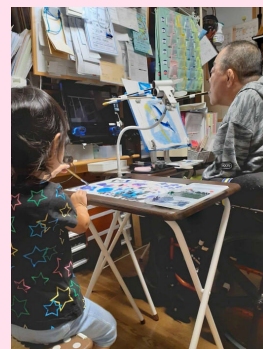
病前は、自営の和食店で35年間板前をしてました。魚は毎日、嫌ってほど沢山見てきました。そのため、魚だったら何となく描けると思い、魚だけを描くことに決めました。しかし、やっぱりマウススティック⁽³⁾くわえて、絵を描くことがいかに難しいかを思い知らされ、一時はやっぱり辞めようかと思ったところを「描き続けなさい」と社長からの言葉があり、続けることができました。それから2年経った今は、色をつける事に興味が湧いてきました。



▲小久保さんの作品。細部まで忠実に描かれており、まるで目の前で魚が泳いでいるかのようです。

◆作業療法士とのエピソード

最初はマウススティックに筆をつけて描いていました。そのうち、使う筆が増え、スティックの数が足りなくなり社長に相談してみたところ、スティックを作ってくれる作業療法士に出会いました。絵を描くことにとても意欲が湧き、気持ちが段々高ぶったことを覚えています。スティックのクオリティーにも、流石作業療法士の仕事だなと驚きでした。口にくわえた時の感覚や素材も、特にこうしてくれとか垂有夫（あふに）にしてくれとも言いませんでしたが、流石ですね。



◆小久保さんにとって、『アート』とは

私は才能がある訳でもないし、絵なんか中学生以来描いてませんでした。見る側、描く側の価値観だと思います。見る人が喜んでくれたらそれで良いと思っています。見る側が思った通りに価値をつければ良いと思います。私はこの数ヶ月間、絵を描くことが楽しい時間になりました。好きなように自由に楽しみたいです。

◆今後の目標について

「為せば成る、為さねば成らぬ 何事も」の言葉のように描き続けることが大事だと思います。でも、色々な事に挑戦してみたいです。まず孫の似顔絵を描いてみたいです。私の場合は首から下が麻痺しているのでできることが限られると思いますが、最近、障害を負った方達の色々な作品を目にする機会が増え、中にはこの作品本当に障害者が描いたの？と驚くことが多々あります。自分も障害を負った人たちに勇気や喜びを与えられたら嬉しいです。



▲お孫さんのゆのちゃん。最近「じいじのマネ！」と言って筆を口にくわえてお絵かきをはじめたそうです。

(1) 小久保さんが通っている「(株) ハート&アートリハビリ&デイサービス ダイアリー」のこと。
(2) 上記デイサービスの代表者・茂木さんのこと。利用者の方はみんな「社長」と呼ぶとのこと。
(3) ペンを持つなど手を使うことが難しい方が、口にくわえて使う道具のこと。

ねえ、 まいて!

作業療法 実録

「アートは、ひととわたしをつなぐもの」 ～老年期・療養病棟にて思うこと～

- 報告者 -

大生病院

作業療法士 細井 三貴子さん

アートは『表現者・物と鑑賞者が相互に作用し精神的な変動を得ようとする活動』と説明されています。

患者様で右片麻痺と失語症があり、左手のみで創作する方がいます。作る事はお好きなのですが、完成するとすぐ自室の棚にしまい、人に見せることは拒みます。その後オンライン面会の日、私は思い切って「みんなに見せましょう」と伝えました。渋々でしたが承諾され、ご家族皆さまから「すごいね！きれいだねー」とほめられ、満面の笑みでした。

また『色カルタ』の集団活動では、色を選びその理由を話す方、それを聞く方達、お互いに楽しそうです。

自分の表出した作品や言葉が、人の心を動かして、自分も楽しくなる！
作業療法ってアートだなあと思いながら、今日も患者さんの隣で創作活動を見守っています。



わたしが 細井 OT です！



▶ 趣味：

マスク作り（去年のマスク不足の頃に始めハマりました）
切手集め（切手も小さなアート）
グルメ番組・鉄道番組（旅行気分が癒されます）

▶ 休日の過ごし方：

近所で散歩や買い物。買ってしまった物をたまに断捨離。
月末はオレンジカフェへ。

▶ 座右の銘：

「今からでも遅くない」

▶ 最後にひとこと：

患者さん一人ひとりが持っている力を発揮できるよう、
お手伝いしていきたいです。

教育部養成教育委員会

①なにをする部・委員会ですか?

各養成校や臨床と連携し、より良い作業療法学生の教育指導環境の構築を行っています。具体的には、現在は主に、臨床実習指導で必要要件となる臨床実習指導者講習会の企画・運営を行っています。

②メンバーはどれくらいいますか?

養成校と臨床のメンバー合わせて10名です。

③アピールポイントは?

臨床実習指導者講習会は、実習での指導者資格要件となる重要な講習会です。埼玉県作業療法士会は、コロナ禍においても全国的にも先駆けてオンライン講習を開始し、受講充足率は全国トップクラスです。しかしながら、まだまだ講習会の必要性は高く、来年度も今年度と同様に年間4回の開催を予定しております。今後の日本の作業療法を担う大切な作業療法の学生のために、臨床と養成校が力を合わせて日々努力しています。

④最後になにか一言!!

養成教育委員会は今年度より設立されたばかりの新しい委員会です。臨床や養成校が分け隔てなく連携し、慣習や既成概念に囚われない新しいアイデアによって、より良い学生育成が実現すればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



こころとくらしの地域支援推進委員会

①なにをする部・委員会ですか?

県士会唯一の精神科領域の委員会です。今までは、研修会の企画運営、精神科で働く作業療法士を中心とした交流会の開催、イベントの参加、実習に行かれない学生への支援を行ってきました。

②メンバーはどれくらいいますか?

メンバーは何人いるのかわかりません。今まで「こころ委員会」に関わってきた会員の人数は30名を超えます。月1回の会議では10名前後が集まり、活動しています。

③アピールポイントは?

こころ委員会は、当事者や支援者、領域や職種といったあらゆる枠組みを取っ払い、個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合えるような「共生社会」実現に向けた取り組みを行うべく、相互に知恵を出し合い、様々なテーマに向き合っていくことをモットーに活動しています。研修会も教える側と教わる側に分かれません。

こころ委員会が初めて行った活動『妙技研修』は今では全国で展開されています。

精神科領域のOTだけではなく認知症領域、身体障害領域、養成校の教員など様々なメンバーで構成されているのもこころ委員会の強みです。また、作業療法士が一度は見たことがあるであろう手芸キットを販売する『さくらほりきり』の方も会議に参加しています。

④最後になにか一言!!

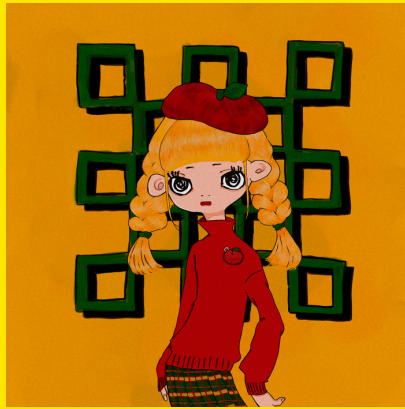
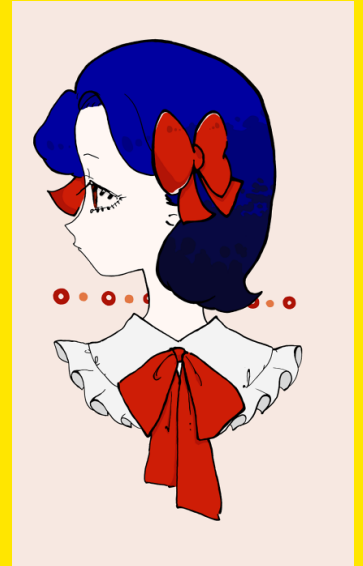
今後は地域に出て活動をしていきたいと思っています。一緒に活動していただけるメンバーを大募集中です。

一緒に突っ走っていきましょう!

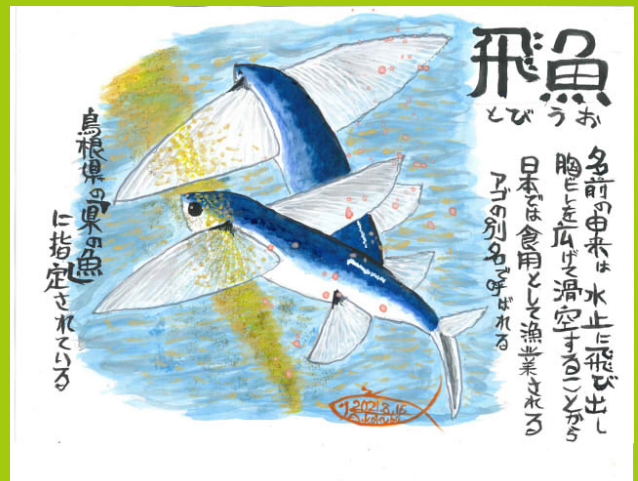
OT ギャラリー

—みんなの作品展—

表紙イラストを担当 清水風花さん —作品展—



「私の声」 小久保昭広さん —作品展—





～ 新メンバーのご紹介 ～

広報部に入りました、狭山中央病院の小島です。

ご縁がご縁を呼び、このような形で広報部の一員になれたので、今後も自分なりの色を出して彩りの中に混ざっていき良い色を出したいと思います。

最近では、コロナワクチンの3回目接種が始まりました。副反応も個人差がかなりある様子なので、自分はどんな副反応になるのか心配です。どんな色の副反応になるのやら…。

今後ともよろしくお願いします。

小島

～ 近況報告 ～

何をやっても三日坊主な私ですが、最近始めて継続できていること…それは「日記をつけること」です。数年前にも日記帳を買ったことがあるのですが続かず…。『なぜ自分は日記を続けられなかったのか?』と振り返り、今回は新たにルールを作って日記を再開しました。

『マイ日記ルール』は、①ノートに書く、②書く量は一行でもOK、③どうしても書く時間が無いときは「疲れたので明日書く」とだけ記しておく…これだけのルールで、なんと一ヶ月続けることができています!ぜひ皆さんも日記を書き始めてみませんか?

石井

みなさんの投稿お待ちしております!

★ 各コーナーの募集要項 ★

●ねえ、きいて! (作業療法実録)

作業療法士がみなさんに送る、「わたしはこんな作業療法をやってるよ!」というお話を募集しています。

●私の声 (作業療法体験談)

今でも昔でも、あなたの作業療法の思い出を聞かせてください。きっと、それは誰かの励みや喜びになるでしょう。

●OT ギャラリー (作品投稿コーナー)

作業療法の中で制作した作品、趣味で作った作品…あなたの『自慢の一品』を大募集!表紙に選ばれるかも!?

《投稿フォームで応募!》

QRL または URL から投稿フォームにアクセス! 必要事項を入力しご応募ください。

【 <https://business.form-mailer.jp/fms/b631815e129531> 】

※投稿フォームで応募後、広報部よりメールにてお返事させていただきます。

《お問い合わせ》

投稿をはじめ、広報誌に関してなにかございましたら、

埼玉県作業療法士会 広報部専用メール【saitama.ot.kouhou@gmail.com】まで!



▼次回もおたのしみに!